

# 「息の長い取り組み」を再確認



## 国労仙台

No. 2587  
2010年6月25日  
発行責任者 橋本 昭二  
編集責任者 武田 昌山

### アスベスト対策会議



国労本部小池業務部長から問題提起を受ける

### 山形へ持ち出し

地本アスベスト対策委員会（中島対策委員長、佐藤事務局長）は、6月12日、山形市内において、第29回アスベスト対策会議を開催した。冒頭挨拶に立った中島対策委員長は、「仙台中心の会議では、メンバーの固定も懸念される。組合員に認識を広げるには、より多くの組合員に参加してもらう事が大切であり、持ち出しの会議を計画した」と、山形での会議の趣旨を説明した。

問題提起はこれまで仙台でのアスベスト学習会で過去2度の講師をした、小池敏哉中央執行委員（本部業務部長）が来形を快諾し実現。詳細な資料と丁寧な説明で参加者は認識を新たにされた。小池中執は国労の現状として、「現役社員の認識はまだまだ不十分であり、アスベストの恐ろしさを理解しているとは言い難い」「また、OBに対する宣伝活動も浸透し切れていない」と、国労全体の認識の底上げが必要と説いた。

続いて地本対策委員会の佐藤事務局長が、これまで

の経過と取り組み、また今後の取り組みを報告し、全体討論に入った。

参加者からは積極的に発言があり、質疑を受けて小池中執は、「JR社員であれば曝露の可能性は十分にあり、だからこそ検診を認めている。報告された産業

医の対応は本部に持ち帰る。支社に対しても粘り強く働きかけを行うことが大切」と、改善に向けての努力を惜しまないことを重ねて強調した。

【会議の詳細は、後日発行される予定のアスベスト会報を参照下さい】

- 6・12 アスベスト対策委員会（山形市）
- 6・13 JR不採用問題報告集会（福島）
- 6・15 乗務員勤務プロセスエクト（会館）
- 6・16 第2回選管（会館）
- 6・20/21 東日本電気協議会職場交流会（作並）

### 低額回答に抗議する

### 各地区で抗議集会を開催

地方本部は、JR貨物の夏季手当「基準内賃金の1・58ヶ月分、7月7日支払」の超低額回答を受け、地本内の貨物分会と当該支部に緊急の抗議集会の開催を指示。

宮城では貨物宮城野駅北門前、福島では郡山分連協事務所内で6月16日に、また郡工支部は郡山総合車両センター前で6月17日に、「貨物の夏季手当1・58ヶ月回答に抗議し再回答を求める集会」を開催した。

### 宮城県集会から怒りで言葉がでない!

### JR東のコンプライアンス

承知の通り、アスベストは「人殺し繊維」と呼ばれ、吸い込めば、じん肺や中皮腫など死に直面する悲惨かつ残酷な病気を発症する。

その対策の一つに注目されるのは「減災」という考え方である。これは阪神淡路大震災を教訓にした対策であるが、「地震は自然災害であり不可避であるが、地震によってもたらされる被害は減らすことができる」としている。

先の震災では建造物の倒壊や取り壊して巻き上がった粉塵に大量のアスベストが含まれていて、解体・除去作業に従事した方が胸膜中皮腫を発症し、労災認定がされたという。耐震化も「減災」の重要な柱であるが、地震が起きる前にアスベストを使用した建造物を把握し除去すれば、被害を防ぐことができるのである。

JRでは所有する車両を始めとして、様々な構造物等からアスベストが見つかる。支社の対策の一例を示すと、JRアパートでは含有するアパート名が公表されてはいるが、一部の除去作業は未定である。またその間は「突いたり、傷を付けるな」という対策であり、更には具体的にどの部分に使用されているのかも、居住者に明らかにされていない。

支社は「希望すれば石綿検診の追加申込みを受け付ける」としており、その点は評価したい。だが、過日のアスベスト検診では、問診の医師が「アスベストと関係のない職場だが、どうして受診するのか」と訪ねたという。

アスベストに対し、余にも「無知」ゆえにこのような質問をしたのだろうが、極めて不見識かつ憂慮される話である。スペシャリストの配置は困難でも、一夜漬けでも勉強したものを「問診」に充てて欲しい。賢沢な希望だろうか。

折りしも信濃川取水の許可があり、清野社長の言葉が通知された。「会社は自らの都合、論理だけで生きていくことはできない。地域とともに発展していかなくてはならない」という清野社長の言葉は極めて重く受け止めたい。

だが、JR東のコンプライアンスは「社外に限る」、では困るのだ。「社内」にもしっかりと目を向けて改善を図るべきである。

集会は、地方本部中島執行副委員長の挨拶に続き、岩井東北貨物協議会議長が交渉の経緯を報告。

「177億の線路使用料を支払っている構造矛盾」「定昇の延期の実態」「黒字確保が難しいと言いつつながらサマーキャンプを実施している」など、貨物会社が経営責任を果たしていないと報告。

阿部貨物宮城分会会長からは、「怒りで言葉も出ない。このような集会をしなくても良い労働条件にするために一緒に闘おう!」と決意を述べた。

最後に大沼執行委員が集会宣言を読み上げ採択。中島副委員長の団結頑張るついで、「再回答」を求め闘つ決意を固めあった。



# 仙台・水戸・東京 東日本ブロック別組対会議

国労東日本本部は、5月から6月に亘り、4ブロックに分割した組織対策交流集会を企画。  
5月30、31日、いわき新舞子ハイツにおいて開催された「第2ブロック集会」には仙台・水戸・東京（新橋）地本が参加。その内容を一部報告する。

## 線から面へ、拡大の流れは止まらない

執行部の提起として、東日本本部武田組織部長は「東日本本部に結集する全機関が更なる組織拡大を目指すし、職場から呼び掛ける契機として、また現在の労働者の現状と実態から今後の運動を見据え学習する場が求められていることを受



郡山駅連千葉書記長

け今回の開催となった」と集会の意義を説明。  
また「今年度社会人採用の31歳（高崎）、勝田駅の47歳が復帰加入（水戸）、柏駅グリーンスタッフの27歳（東京）など拡大の流れは止まらず一括和解以降79名が国労へ加入。点から面

へ運動を広げよう」と呼び掛けた。  
**当り前の運動が原点**  
全体交流会では各地方本部から拡大の取り組みが報告され、仙台地本からは「他労組と協議し、会社施設で労組説明会を開催し、

## 組織を支えた労苦をねぎらう 松島で 福祉問題学習会

5月30、31日、ホテル大観荘において、福祉問題学習会と慰労会が開催された。  
学習会の部で、挨拶に



立った橋本委員長は、不採用問題の解決に触れた後、「先輩方は、マル生攻撃を経験された最後の年代であり、42年間の鉄道人生、国労組合員としての三分の二は、差別と弾圧との闘いであった。しかし歯を食いしばり、国労の旗の下で団結し、運動と組織を守って頂いたことに心から感謝し、敬意を表したい」と述べた。  
学習会では、再雇用制度や共済、退職者の会等についての説明が行われた。また慰労会では、参

加者は、日頃中々顔を合わすことが出来ない同期の仲間達と、長年の鉄道人生の苦楽を心ゆくまで大いに語り合っていた。

### 地方本部よりお詫び

今回の福祉問題学習会及び慰労会の開催にあたり、集計上の間違いがありました。  
結果として一部の方にご案内が届きませんでした。心よりお詫び申し上げます。



報告する兜森さん。左は岩崎さん

### 躊躇する悩みも

こつした取り組みを全ての職場で実践できれば、拡大が更に進むことは明らかだが、まだまだ全体化はされていない。  
分散会（7グループでの討議）では、国労加入を呼

び掛けることに躊躇している実態や悩みも報告された。しかし、職場の規模や分会活動状況により、取り組みの差異はあるものの、参加者全員が他労組の仲間とながりを持っていることも明らかになった。  
**一歩踏み出す勇気を**  
集会の最後に武田組織部長は、「今回の交流集会では、国労運動への自信と、拡大に向け一歩踏み出す勇氣を持つことが意義。全体であと一歩踏み出そう！」と挨拶し終了した。  
**退職のお知らせ**  
5月31日  
村上 公男さん  
仙石線駅連合  
長い間お疲れ様でした

## 長澤議員が議会で御礼

国労議員団である長澤勝幸喜多方市議会議員が、6月定例会の一般質問に先立って、JR不採用問題の早期解決について経過と御礼を述べた。内容は以下の通り。



4月9日に政権与党および公明党の4党による「和解案」合意に基づく「国鉄改革1047名問題の政治解決に向けた申し入れ」を国土交通省を始めとした関係団体が受け入れを表明し、23年余の長きに亘る労働争議が政治解決に向け動き出した。  
国労としても4月26日に臨時全国大会を開催し、全会一致で政府解決案受託を決定し、戦後最大の国家

的不当労働行為とも言われた労働争議が事実上、解決に至った。被解雇者の平均年齢は56歳となり、解決を見ることなく亡くなった方は61名を数えるなど、一日も早い政治解決を求めていただけに、関係者を始め自分も感慨ひとしおである。  
本会議においても過去3度同種の請願が審議され、2回にわたり採択を頂いた。当事者と関係団体にとって大変心強く励みになったことは言うまでもない。

解決にあたり、議員各位の請願に理解を頂いての採択と、多くの市民に支援頂いた事に対し感謝を申し上げます。

